

この紙のゴール：部分否定と全否定を書き分け、強調と倒置でいちばん言いたいことを前に出せる

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高校範囲の6つのわざを通します (確認は4択)

気づき AとB、日本語にするとどちらも「みんなが賛成した、とは言えない」に見える。でも意味は正反対。どこがちがう？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	Not all of the members agreed with the plan.
B	None of the members agreed with the plan.

決め手はnot のとなりに何があるかです。Aは not と all がとなり合っているので、打ち消しているのは「賛成した」ではなく「全員」のほう—だから「全員ではない＝何人かは賛成した」になります。Bの none は数そのものをゼロにしているので、賛成した人はいません。日本語の「みんな～ない」はどちらにも読めてしまうので、英語では形で決める必要があります。

整理 この単元で扱う6つのわざ (何を前に出すか、何を打ち消すか)

形	作り方	表すこと	例文
部分否定	not + all / every / always / both	全部が～というわけではない	Not all birds can fly. すべての鳥が飛べるわけではない。
全否定	no + 名詞 / none of ... / never	ひとつも～ない	None of my friends knew it. 友だちはだれも知らなかった。
強調構文	It is + 強調語 + that ... (人は who も)	～なのは…だ	It was my sister that called. 電話をくれたのは姉だった。
語で強調する	do / does / did + 原形 / the very + 名詞	本当に～なのだ／まさにその	I do want to go with you. 本当にいっしょに行きたい。
否定語句の倒置	否定語句 + 疑問文の語順	打ち消しを前に出して強める	Never have I been so nervous. あんなに緊張したことはない。
省略	繰り返しを省く (助動詞は残す)	言わなくても分かる部分を落とす	He can ski, but I cannot. 彼はスキーができるが、私はできない。

この単元は全部いちばん言いたいものを前に出すためのわざです。ただし英語は位置が役割を決めるので、否定語句を文頭に出すとそのあとが疑問文の語順になるという代償を払います。落とし穴は3つ: 部分否定は not と all / always がとなりのとき、強調構文は It is と that を外すともとの1文に戻る、省略しても助動詞は残す。なお倒置が起きるのは、前に出たのが主語以外のとき (Never / Rarely / Only after ...) だけ。否定語が主語に入っている文 (Not all birds can fly. / None of my friends knew it.) は語順のままです。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) (That / It / There / He) was my sister that found my wallet.
- (2) I (am / very / much / do) want to join the team, but I have no time.
- (3) (Never / Sometimes / Not / No) have I seen such a long line.
- (4) Little (I knew / knew I / did I know / I did know) that he was watching me.
- (5) Only after the game (I noticed / did I notice / I did notice / noticed I) how tired I was.

否定・強調・倒置・省略の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	It	It is + 強調したい語 + that。ここでは「見つけたのは姉だ」と、だれかを前に出している。
(2)	do	動詞を強めるのは do + 原形。思いこみの打ち消しによく使う。
(3)	Never	否定語句を文頭に出したら、うしろは疑問文の語順 (have I seen)。
(4)	did I know	Little も否定の仲間。前に出したら did + 主語 + 原形にする。
(5)	did I notice	Only + 語句が文頭に出たときも倒置。「～して初めて…した」の形。

つまずき① 部分否定を全否定として読む

not のとなりに all / every / always / both があれば、打ち消されているのはその語です。「全部ではない」だけで、「ゼロだ」とは言っていません。

× Not everyone in the club came, so the meeting was canceled. → ○ No one in the club came, so the meeting was canceled.
「全員が来たわけではない」なら何人かは来ているので、中止の理由にならない。ゼロなら No one。

つまずき② 日本語の「みんな～ない」をそのまま All ... not で書く

All the students did not pass. はどちらにも読めてしまうので避けます。「何人かは受かった」なら Not all、「ゼロ」なら None of と、最初から形で言い分けてください。

× All the members of my class did not agree with the plan. → ○ Not all the members of my class agreed with the plan.
「全員が賛成したわけではない」と言いたいなら Not all を文頭へ。ゼロなら None of the members agreed。

つまずき③ 否定語句を前に出したのに語順を戻さない

前に出すには代償が要ります。Never / Little / Rarely / Only after を文頭に置いたら、うしろは疑問文の語順に。

× Never I have heard such a strange story. → ○ Never have I heard such a strange story.
Never を前に出した代わりに、have を主語の前へ。倒置しないなら I have never heard ... と元の位置に戻す。

つまずき⑤ 省略しすぎて助動詞まで落とす

繰り返しになる部分は省けますが、残すべき目印まで落とすと文が立ちません。一般動詞なら do / does / did、be動詞なら be、助動詞があればその助動詞までを残します。

× My brother can swim well, but I not. → ○ My brother can swim well, but I cannot.
swim well は省けるが、can は残す。一般動詞の文なら but I do not の形になる。

授業のひとこと 導入は Not all と None の2文だけで十分です。そのあと1分、教科書の本文から not のある文を2つ選ばせてください—not のとなりの語に○をつけるだけで、どこが打ち消されているのかが目で見えるようになります。

